

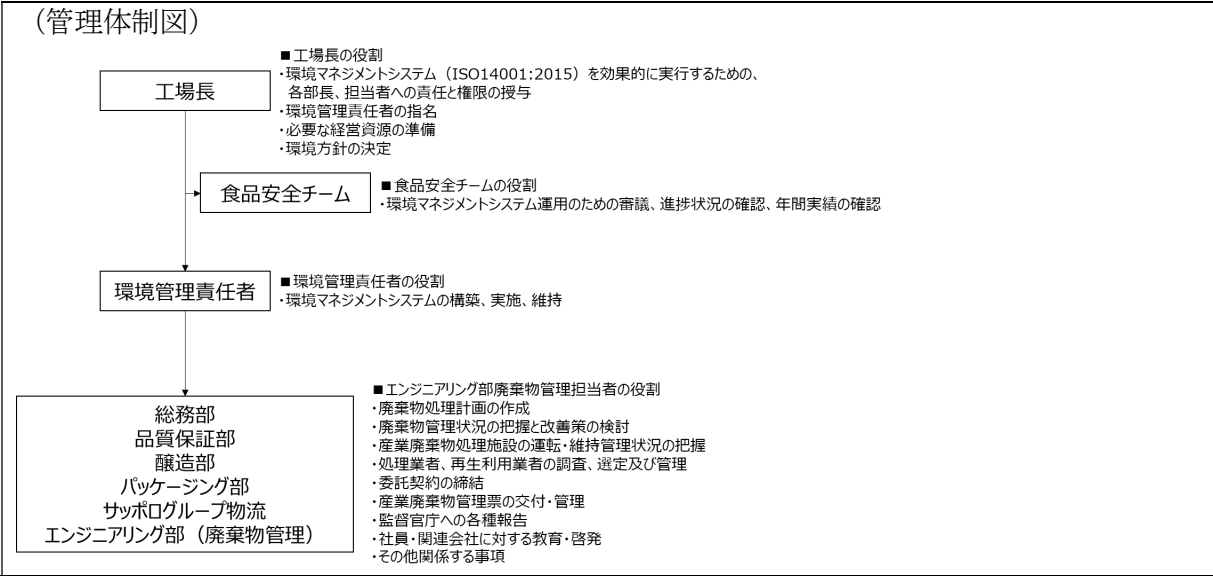
様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2022年 6月 21日	
都道府県知事 広瀬 勝貞	殿
提出者 住 所 〒877-0054 大分県日田市大字高瀬6979 氏 名 サッポロビール株式会社九州日田工場 工場長 下田 智紀 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0973-25-1111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	サッポロビール株式会社 九州日田工場
事業場の所在地	大分県日田市大字高瀬6979
計画期間	2022年4月1日から2023年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	飲料・たばこ・飼料製造業－酒類製造業－ビール製造業 [1022]
②事業の規模	製品出荷額 6,123百万円
③従業員数	2021年3月末現在 約100名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph TD A[発生源] --> B[廃棄物] B --> C[処理] D[製造工程] --> E[廃棄プラスチック] D --> F[木くず] E --> G[セメント助燃材 セメント原料化等] F --> G H[廃水処理工程] --> I[汚泥] I --> J[汚泥撒水設備] J --> K[脱水汚泥] K --> L[燃料再商品] K --> M[肥料化] subgraph Box [] G L M end N[委託処理] </pre>

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (2021年度) 実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	ガラス・陶磁器くず	木くず	汚泥	動植物性残さ
	排出量	17.47 t	0.87 t	8.36 t	12826 t	3.1 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチック類：シュリンクフィルム・ストレッチフィルムの他、ホポリ容器、ビールホース等のマテリアルリサイクル推進を継続 汚泥：嫌気性廃水処理設備による汚泥発生量の削減					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	ガラス・陶磁器くず	木くず	汚泥	動植物性残さ
	排出量	17 t	1 t	8 t	15261 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチック類：シュリンクフィルム・ストレッチフィルムの他、ポリ容器、ビールホース等のマテリアルリサイクル推進を継続 汚泥：嫌気性廃水処理設備による汚泥発生量の削減					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別の種類：汚泥、廃プラスチック類、ガラスくず、木くず、動植物性残さ 分別に関する取組：工場内の各廃棄物発生場所での分別徹底、処理区分別に収集する
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別の種類：汚泥、廃プラスチック類、ガラスくず、木くず、動植物性残さ 分別に関する取組：工場内の各廃棄物発生場所での分別徹底、処理区分別に収集する

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	11638 t	t
	(これまでに実施した取組) 当工場内の汚泥脱水施設で中間処理を実施。 処理方法：ベルトプレス方式（含水率65～75%）、処理能力：170t/日		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	13848 t	t
	(今後実施する予定の取組) 当工場内の汚泥脱水施設で中間処理を実施。 処理方法：ベルトプレス方式（含水率65～75%）、処理能力：170t/日		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
①現状	【前年度（2021年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	-				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t			t	
	(これまでに実施した取組) なし					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	-				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t			t	
	(今後実施する予定の取組) なし					
産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	【前年度（2021年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	ガラス・陶磁器くず	木くず	汚泥	動植物性残さ
	全処理委託量	17.47 t	0.87 t	8.36 t	1198.91 t	3.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	14.58 t	0.87 t	8.36 t	121.46 t	3.1 t
	再生利用業者への処理委託量	17.47 t	0.87 t	8.36 t	121.46 t	3.1 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 処理業者と委託契約を締結するにあたっての事前の現地確認（処理状況、維持管理状況等）と、委託後の定期的な確認。 マニフェストの管理を徹底する。						

		【目標】				
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	ガラス・陶磁器くず	木くず	汚泥
②計画	全処理委託量	17 t	1 t	8 t	15261 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	12 t	1 t	8 t	120 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	17 t	1 t	8 t	15261 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>処理業者と委託契約を締結するにあたっての事前の現地確認（処理状況、維持管理状況等）と、委託後の定期的な確認。 マニフェストの管理を徹底する。</p>					
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。